

実績報告

診療部

- ・医 局
- ・歯 科
- ・薬 剤 科
- ・放 射 線 科
- ・臨 床 検 査 科
- ・栄 養 科
- ・心 理 室
- ・医 療 相 談 室
- ・デ イ ケ ア 科
- ・作 業 療 法 科



診 療 部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、医療相談室、心理室、デイケア科で構成されている。

今年度も診療部会議を年2回開催した。各部門の課題およびその進捗状況について話し合い、課題共有に有効な場としている。

診療部長 豊岡 和彦

【部署名】

医局

【職員数】

11名（精神科医7名、内科医2名、事務員2名）

平成30年度は、5月より、デイケア専従医師として高橋敬一先生が新たに入局された。高橋先生は、週におよそ2日間、デイケアに勤務されている。また平成30年度末に、澁谷太志院長が退職された。平成31年4月より、金子尚史院長、澁谷雅子副院長、布川綾子医長を迎えることになった。

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。平成30年度も、救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、時間外診療を積極的に行った。

I. 精神科救急

平成30年度は、新潟県の精神科救急システムにおいて、月・水・木の夜間のほぼ全て、さらに休日昼間・休日夜間の救急を輪番で担当した。実際には、夜間は平日・休日合わせて年間154日（前年度157日）、休日昼間は年間15日（同16日）を担当した。

その中で、電話対応は1,061件（前年度1038件）、診察106件（同129件）、入院31件（同45件）であった。

II. クリニック業務

澁谷太志院長、川嶋副院長、豊岡診療部長、熊田医長、橋野医長がとよさかクリニックに出張し、稲月医師と共に診療にあたったが、平成30年4月末日で同院は閉院となった。

III. 地域精神保健への協力

措置鑑定8件（前年度2件）、措置入院23件（同26件）、応急入院2件（同3件）、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行った。

平成29年度より、新潟市北区において、特定健診にあわせて、もの忘れ検診が開始されており、平成30年度も当院は専門病院として、要精査とされた人の診察を行った。

IV. 会議・委員会

医局連絡会議；基本的に第1と第3月曜日、午後4時半から、30分～1時間で開催された。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて、各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題についての報告、議論、提案がなされた。その他、全体会議；医局医師全員、理事会；鈴木理事長、澁谷院長、川嶋副院長、医療安全対策委員会；川嶋副院長、院内感染防止対策委員会；澁谷院長、鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；橋野医長、医療観察法運営委員会；澁谷院長、衛生委員会；豊岡診療部長、鈴木理事長、薬事委員会；鈴木理事長、澁谷院長、豊岡診療部長、病院食検討委員会；澁谷院長、鈴木理事長、業務改善委員会；熊田医長、未収金対策委員会；鈴木理事長、澁谷院長、診療部会議；豊岡診療部長、事後審査委員会；川嶋副院長、が担当した。

【今後の展望】

平成30年度も、医局は、入院患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、ベッドコントロール等に追われる多忙な1年であった。令和元年度は、金子院長を始め新たな医局員を迎え、病院の発展と地域医療への貢献に、さらに取り組んでいく予定である。

文責 川嶋 義章

平成30年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	271.6	274.3	260.5	262.6	274.0	274.7	273.5	270.4	261.5	258.0	261.5	262.9	267.1
新入院患者数	61	54	44	45	56	30	45	33	45	42	32	46	533
救急病棟入院者数	43	33	30	34	39	23	36	21	30	31	28	31	379
措置入院者数	1	3	2	3	2	1	2	1	3	2	1	2	23
応急入院者数				1	1								2

平成30年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来 の み	10	7	3	11	9	10	8	11	18	8	9	10	114
入 院 受 入 れ	6	6	7	7	5	4	5	0	5	5	5	4	59

平成29年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	271.1	272.5	269.3	268.8	267.5	265.7	263.2	246.2	240.0	254.2	263.0	261.0	261.9
新入院患者数	48	36	46	50	36	49	39	37	51	46	41	44	523
救急病棟入院者数	34	24	25	35	25	26	26	26	38	33	33	32	357
措置入院者数	3	1	2	5	1	3	3	1	2	1	2	2	26
応急入院者数								1		1		1	3

平成29年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来 の み	9	14	16	15	15	13	11	8	10	10	12	10	143
入 院 受 入 れ	9	7	5	9	3	8	5	7	6	7	3	11	80

【部署名】

歯科

【職員数】

7名（歯科医師6：新潟大学医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野、事務員1）

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に診療を行うとともに、週一回訪問診療を行なっている。

【今後の展望】

診療日を縮小（4回/週→2回/週となる）。また、事務員退職に伴いサポート職員が診療の補助又は医療事務を担うこととなるが、日々診療の補助業務、医療事務の研鑽を積み、患者などに迷惑とならぬよう努める。

文責 川島 博幸

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療延人数	149	158	132	140	154	136	153	161	141	98	98	152

【部署名】

薬剤科

【職員数】

3名（薬剤師2名 事務員1名）

【業務内容】

平成20年11月の外来処方箋の院外完全移行により外来患者の調剤が無くなり、現在薬剤科における主な業務の中心は院内処方箋に基づく調剤と、病棟における薬剤管理指導業務となっている。特に平成25年以降は電子カルテ導入により薬物治療情報が院内において一元化されたため、各部署からの薬剤情報への問い合わせ等も多々ある。その他、心理教育における病棟及び家族会での薬剤啓蒙講義、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、教育委員会等）への参加などチーム医療関連の業務も多く行っている。また医療安全面からの職員への薬物投与時等における教育・啓蒙活動、更には適正な薬物治療を目指した抗精神病薬の単剤化やスイッチングも医師を始めとした各職種と連携しながら行っており一定の成果を挙げている。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設により様々な患者の入院が想定される中、薬剤科としてはそれに伴う患者への薬学的関わり（持参薬管理における相互作用チェック、服薬指導等による服薬アドヒアランス向上等）を行うことで、スムーズな治療、退院へと結び付けられるよう各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また病院経営への寄与ということで、先発医薬品の積極的な後発品への変更、期限切れによる廃棄薬剤の減少、持参薬切り替え時の当院採用薬への使用推奨、病棟機能による薬剤の適正使用も検討していきたい。

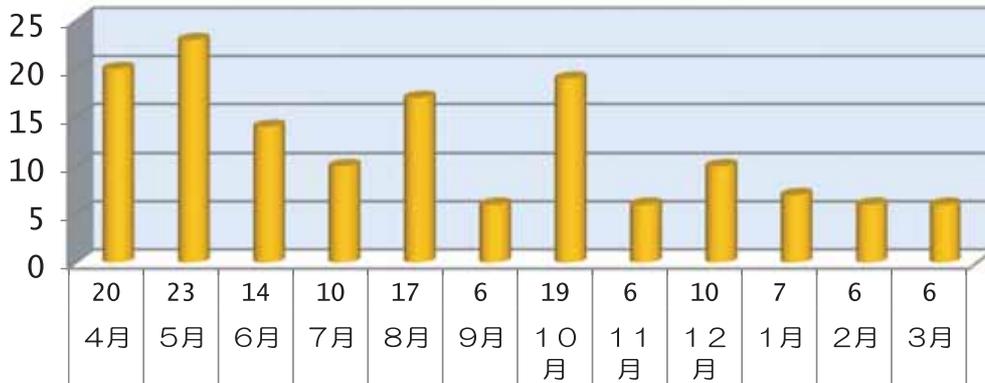
文責 田中 光生

【実績】

① 薬剤管理指導料件数

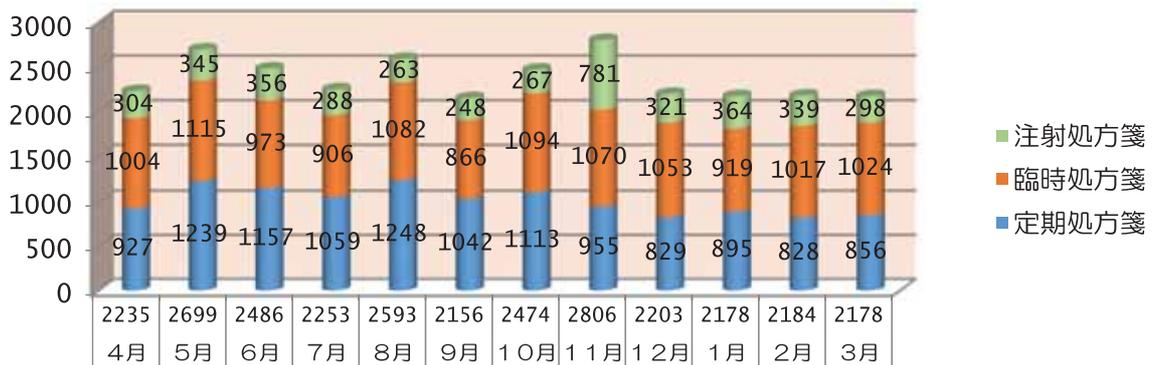
(薬剤管理指導料2・薬剤管理指導料3・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数)

薬剤管理指導料総件数



② 処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)

処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)



③ 処方箋枚数 (歯科・麻薬処方箋)

処方箋枚数 (歯科・麻薬)



【部署名】

放射線科

【職員数】

2名（診療放射線技師2名）

【業務内容】

放射線科は下記のように外来患者と各病棟入院患者に対しての担当医の指示による画像検査と画像データ管理、及び放射線管理と医療機器管理等の管理業務を行っている。

1. 一般撮影の実施

- ①胸部単純（種々の胸部疾患の有無の確認、経鼻胃管挿入後の位置確認）。
- ②腹部単純（腹部膨満や腹痛等の原因となる腹部疾患の有無の確認）。
- ③全身骨・関節（転倒や打撲に伴う骨折の有無、関節痛や腫脹の原因となる疾患の有無の確認）。

2. 単純CT検査の実施

- ①頭部単純（器質性精神病の疑い、器質性脳病変の疑い、認知症の疑いとその経過、脳血管性障害の疑い、頭部外傷後の精査）。
 - ・長期入院（入院日数が100日を超える）患者の定期的な頭部CT検査の実施。
- ②胸部単純（肺疾患等の検索及びその経過観察）。
- ③腹部単純（腹部疾患等の原因となる腹部臓器の異常の検索）。
- ④その他の単純（胸腰部疼痛の原因検索、頭頸部の腫脹等の精査、四肢の発熱の原因検索）。

3. 画像データの管理と読影補助、PACSの管理等

- ①検像後の撮影画像をPACSへ転送し、その画像データの管理及び医師のモニタ読影の補助。
- ②CT検査画像をPACSへ転送し、その画像の観察補助及び画像データの管理。
 - ・CT検査画像に関しては外部の読影専門機関へ画像データを送信、読影の依頼。
 - ・後日届いた画像診断専門医による読影レポートのPACSへの保存管理。
 - ・レポート内容の電子カルテへのCT検査所見として転記作業。
- ③PACSの機器管理（保存の画像データの定期的なバックアップ作業等）。
 - ・9月半ばにPACS機能を更新、画像データ保存容量を増大（250Gから2Tへ）。
- ④他医療機関との連携による記録メディア（CD、DVD）を介しての画像データの管理。
 - ・他医療機関から受け取ったメディア内画像データのPACSへの読み込み作業。
 - ・他医療機関へ提供の為にPACSからメディア内への画像データの書き込み作業。

4. 日常業務における医療機器（X線機器とPACS）の始業時及び終業時の点検作業

5. 医療機器の保守点検の実施と放射線診療室の漏えいX線線量測定の実行

- ①保守点検計画に基づいた医療機器メーカーの担当者による保守点検実施時の立会。
 - ・CT装置は年2回、一般撮影装置とPACSは1回の実施。
 - ・歯科診療室のX線機器の保守点検は歯科診療室担当者に委託。
 - ・保守点検の結果の確認と評価（各々の医療機器の機能異常はみられなかった）。
- ②線量測定担当者による撮影室とCT検査室周辺の漏えいX線線量測定時の立会。
 - ・測定結果の確認と評価（各室外側における漏えいX線の検出はなかった）。
- ③歯科診療室X線撮影室の漏えいX線線量測定と評価（漏えいX線の検出はなかった）。

【今後の展望】

1. これまで通りに担当医師からの指示により一般撮影とCT検査を行っていく。長期入院患者では頭部CT検査を定期的（3か月、6か月、1年毎）に実施することで頭蓋内病変等の早期発見に努めていく。
2. 医療機器の始業時点検及び終業時点検並びに保守点検により全ての医療機器の安全管理（X線被ばく線量の低減を含む）に努めていく。
3. 今年度で退職者あり、その後任者への指導を行っていく。

文責 石田 均

【実績】

〈画像検査数〉

①一般撮影回数

撮影部位	回数		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
胸部	695	650	645
(胸部:胃チューブ確認)	122	163	140
頸部	0	0	0
腹部	31	56	34
全身骨・関節	73	153	110
総数	799	859	789

②CT検査数

検査部位		件数		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
頭部	外来	168	158	74
	病棟	443	389	670
胸部	外来	3	4	3
	病棟	73	78	156
全腹部		41	43	47
頭頸部		2	3	2
上肢		1	0	1
体幹部(胸部～骨盤部)*		1* ¹	8* ¹	12
総数		732	683	965

*1 体幹部：死亡時画像診断を含む(平成30年度死亡時画像診断検査の実績は無い)。

〈医療機器保守点検及び漏えいX線量測定〉

医療機器	保守点検実施月日	漏えいX線量測定月日
一般撮影装置	平成30年9月11日	①平成30年8月20日 ②平成31年2月25日
全身CT装置	①平成30年8月20日 ②平成31年2月25日	
CR装置	—	/
PACS	—	
歯科撮影装置		①平成30年5月21日 ②平成30年11月5日

※CR装置は新規に保守契約を締結、PACSは平成30年9月18日に新機種に更新。

〈他医療機関との診療画像の送付及び受取件数〉

診療画像	平成28年度	平成29年度	平成30年度
他医療機関への送付	35	49	32
他医療機関からの受取	47	31	53

【部署名】

臨床検査科

【職員数】

3名（臨床検査技師3名）

【業務内容】

全入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し原則毎月1回の定期採血（肝機能・腎機能・糖脂質・血球算定等）を実施し身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し薬剤治療における適切な治療域管理を行っている。外来受診者においても年1回の採血を原則とし病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変え身体的状況の把握や精神薬治療域管理に努めている。

生理検査では主に抗精神病薬副作用のモニタリングとして心電図検査を定期的に行っており、各病棟（急性期・身体合併等）の形態に合わせて検査頻度を設定し薬剤副作用及び心疾患の早期発見に努めている。脳波検査は医師の指示を受けて個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

職員健診は年2回実施しており春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として主に採血及び心電図検査を実施している。

検査業務以外の活動としては感染症発生状況及び薬剤耐性菌検出状況の把握並びに感染症発生時のICTによる感染防止対策への参加、合わせて組織全体への院内発生状況の周知を行っている。

その他、主に看護師を対象に検査技師不在時に用いられるPOCTの使用方法についての勉強会を主催している。

【今後の展望】

平成30年12月に改正医療法が施行され、医療機関が行う検査について精度の確保を求められるようになった。概ね体制は整え終えたが次年度には生化学自動分析装置の入れ替えを予定しており、導入に合わせてマニュアル・管理台帳等の更新について滞りなく準備を進めていく。

今後も医療業界の進歩に合わせ、絶えず新しい情報を収集し検査科としての患者サービスの向上と将来性のあるシステム作りを行いたい。

文責 村木 憲一

【実績】

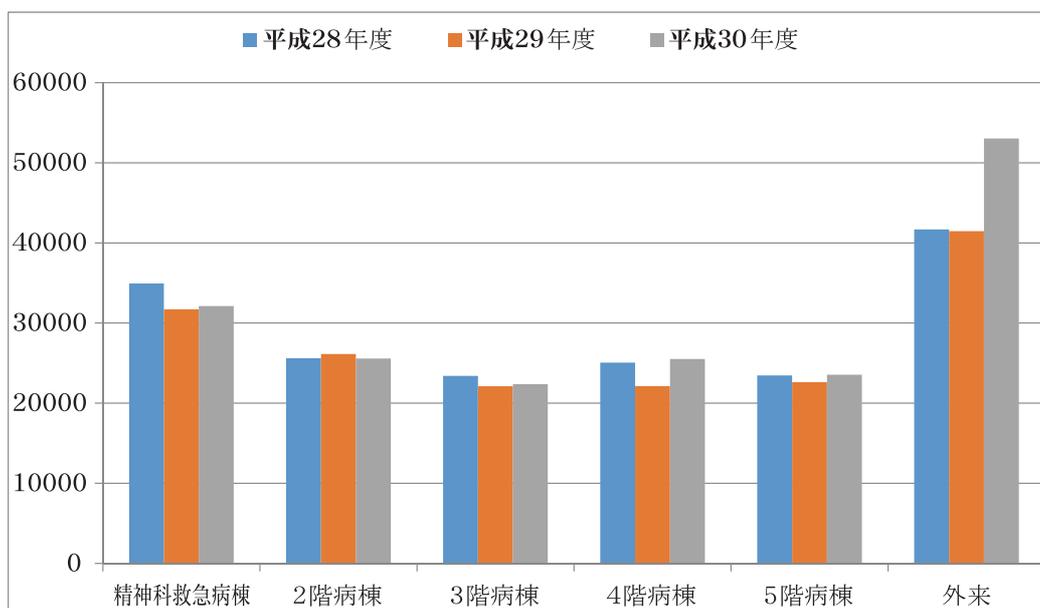
検体検査実施実績一覧

	平成29年度	平成30年度
精神科救急病棟	31,716項目 (内TDM214件)	32,118項目 (内TDM155件)
2階病棟	26,133項目 (内TDM132件)	25,574項目 (内TDM 93件)
3階病棟	22,121項目 (内TDM258件)	22,367項目 (内TDM257件)
4階病棟	22,141項目 (内TDM180件)	25,516項目 (内TDM140件)
5階病棟	22,631項目 (内TDM225件)	23,548項目 (内TDM218件)
外来	41,472項目 (内TDM349件)	53,036項目 (内TDM466件)
職員健診	3,824項目	3,967項目
合計	170,038項目 (内TDM1,358件)	186,126項目 (内TDM1,329件)

生理検査実施実績一覧

	心電図検査実績	脳波検査
精神科救急病棟	354件	3件
2階病棟	254件	0件
3階病棟	142件	1件
4階病棟	140件	0件
5階病棟	154件	1件
外来	837件	2件
職員健診	129件	0件
合計	2010件	7件

検体検査実績



【部署名】

栄養科

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い、適切であるか評価している。毎月BMIを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低Alb値や肥満の場合、病棟や患者名、毎月のBMIを記載し、低栄養患者や肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減量した患者の一覧も月ごとに栄養科で作成している。毎月のNST委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はNST委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っている。また、隔月ごとに「みなみはま栄養たより」を作成し、健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立作成をしている。嗜好調査や病院食検討委員会でも挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。年間12回ランチビュッフェ、精神科救急病棟では選択メニューを行い、食事を通じて患者の選択が広がるよう立案している。昼食時には、病棟訪問を行い患者の摂食状況を把握している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設設備管理を行っている。

【今後の展望】

栄養指導や心理教育を行うことで、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、摂食障害や高齢者を対象としたハーフ食や嚥下訓練食の導入を検討し、患者の病態・症状にあわせた食種の設定をしていきたい。

文責 吉沢 直子

【実績】

(1) 提供食事数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	23,101	24,065	22,257	23,601	24,398	23,759	24,475	23,191	23,085	23,142	21,266	23,314
デイケア他	814	815	885	916	945	734	908	873	809	813	795	834

(2) 栄養指導件数（入院・外来含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	64	70	87	37	41	28	32	27	26	11	30	31

【部署名】

心理室

【職員数】

5名（公認心理師）

【業務内容】

外来・入院患者を対象に心理検査や心理面接（カウンセリング）、また患者の家族を対象とした家族への心理教育（家族相談会）を行っている。その他、提携企業や福祉事業所などへの定期的なメンタルヘルス研修や、行政と連携して地域での家族相談会を実施している。

心理検査は、質問紙や投影法といった検査用具を用いて、患者の病態水準や病状理解、性格傾向の把握などをおこない、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接は、現在職員5名で188名の患者をフォローしており、アセスメントにもとづき精神分析的心理療法や認知行動療法、家族療法など患者の治療に有用な心理療法を用い、その方が困っている生活上の問題を自身でコントロールできたり、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促したりし、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

家族への心理教育では、家族に対する病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワークを一緒にした家族相談会を企画し、他職種スタッフと共に実施している。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献にも協力している。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設以来、発達障害圏や一過性のストレス性疾患の患者、また認知症の患者の受け入れも増え、検査やカウンセリングの依頼が多く来年度もこの傾向が続くことは予想される。今年度はこれまで十数年実施してきた統合失調症の心理教育の姿勢やスキルを応用し、一過性のストレス性疾患の患者やそのご家族への心理教育グループの試みなどにもチャレンジしていきたい。

職種が公認心理師として国家資格化され、平成30年8月に試験が行われた。当職員皆資格を取得することができ、令和元年度から公認心理師を肩書きとして、臨床心理士とのダブルの資格を背景に業務にあたることとなる。患者一人ひとりに対する対応の責任性も一層増すこととなり、個々の臨床スキルだけでなく倫理観、人間性といった全人的なレベルアップを心がけながら日々業務を行っていきたいと考えている。

文責 中川甚一郎

【部署名】

医療相談室

【職員数】

8名（精神保健福祉士8名）

【業務内容】

- ・新患インテーク面接
- ・生活、医療福祉相談対応
- ・入院者退院支援
- ・他機関連携業務
- ・各種プログラム協力
- ・各種調査、アンケート協力
- ・外部会議出席
- ・共同住居管理
- ・実習生受け入れ
- ・夜間休日救急オンコール対応 等

【今後の展望】

平成30年3月1日より全ての病棟において精神保健福祉士担当制とし1年余りが経過した。会議等のフォーマルな場面はもちろんのこと、インフォーマルな場面での多職種による情報共有も効果的な連携に繋がっているように思われる。引き続き病棟担当制を維持し、より良い支援を目指す。外来患者については個別担当制を廃止し、その都度対応者によるワンストップ対応を心掛けてきたが、ケースによっては相談先が一本化されているほうがスムーズな場合もある。必要があれば今後も柔軟な対応を心掛けていきたい。

ここ数年は、特に“連携”を重視し業務にあたってきたが、業務整理がある程度進んだ現在、今一度PSW個々の資質向上を図るため、次年度部署目標を「私たちは問題より可能性を、強制ではなく選択を、病気より健康を見る支援を心掛けていきます」とした。

文責 大澤 孝

【実績】

精神保健福祉士業務実績（精神科救急病棟精神保健福祉士を含む）

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療	援助	313	255	249	296	297	234	290	270	277	234	217	280	3,212
経済問題	援助	7	9	18	15	7	4	12	22	9	12	14	22	151
背景・要因	把握	94	125	142	135	130	102	141	122	114	129	108	111	1,453
治療・療養	上の援助	168	220	151	160	174	140	191	157	194	166	159	159	2,039
社会・家庭	生活上の援助	83	106	111	100	120	75	135	84	81	88	87	134	1,204
制度利用	援助	164	214	231	206	237	187	339	225	177	205	210	198	2,593
退院・社会	参加への援助	163	115	234	113	158	158	204	143	150	221	187	233	2,079
アフター	ケア・訪問看護	144	154	96	131	136	150	140	157	97	124	147	126	1,602
その他		84	69	48	52	60	49	48	61	41	27	36	75	650
援助方法	面接	434	511	492	431	492	340	463	398	386	414	441	419	5,221
	院内調整	93	107	107	122	115	111	134	93	82	107	99	93	1,263
	電話文書	686	649	678	650	708	648	898	749	663	679	625	806	8,439
	院外訪問	2	1	4	4	4	3	8	1	11	4	1	3	46
総数	1,215	1,268	1,281	1,207	1,319	1,102	1,503	1,241	1,142	1,204	1,166	1,321	14,969	

各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類

精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度(年)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
延べ件数	8,650	11,171	16,781	14,934	15,168	13,454	19,386	15,804	14,969
月平均	720.8	930.9	1,118.7	1,244.5	1,264.0	1,121.1	1,615.5	1,317.0	1,247.4

平成30年度 共同住居入居者数

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家 (定員13)	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
吉田家 (定員12)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

【部署名】

デイケア科

【職員数】

9名（看護師3名 精神保健福祉士5名 作業療法士1名）

【業務内容】

プログラムの提供

【集団： ピアサポーター活動、WRAP、就労支援、SST、認知行動療法、スポーツクラブ、園芸、創作、調理実習、音楽活動、文化活動、書道・俳句グループ、記者クラブ、話・憩いの広場、メンバーミーティング。
個人： パソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物など。】

デイケアでは様々なリハビリテーションプログラムがあり、生活で困難に感じることや困っていることを軽減したり、予防したりすることが出来る。また同じ悩みや困難を抱えている人達の繋がりもできる。プログラムへの参加は自分で選択するため「主体的に責任を持って生きる」ことをサポートする。

【今後の展望】**1. 新規利用者の確保と参加人数の安定**

- ① 新規利用者のニーズを把握し、利用者の目的に即したデイケア作りを行い参加者を確保する。
- ② デイケアでの活動を多くの患者に周知できるよう外来、訪問看護ステーション、作業療法科、病棟と連携しながら調整していく。
- ③ 特に若い世代では就労支援、SST、WRAPなど目的別に短期間の参加が出来ることを周知していく。
- ④ 居場所的利用者が目的を持って充実した時間を過ごせる空間を提供できるようアプローチ、環境設定を行う。

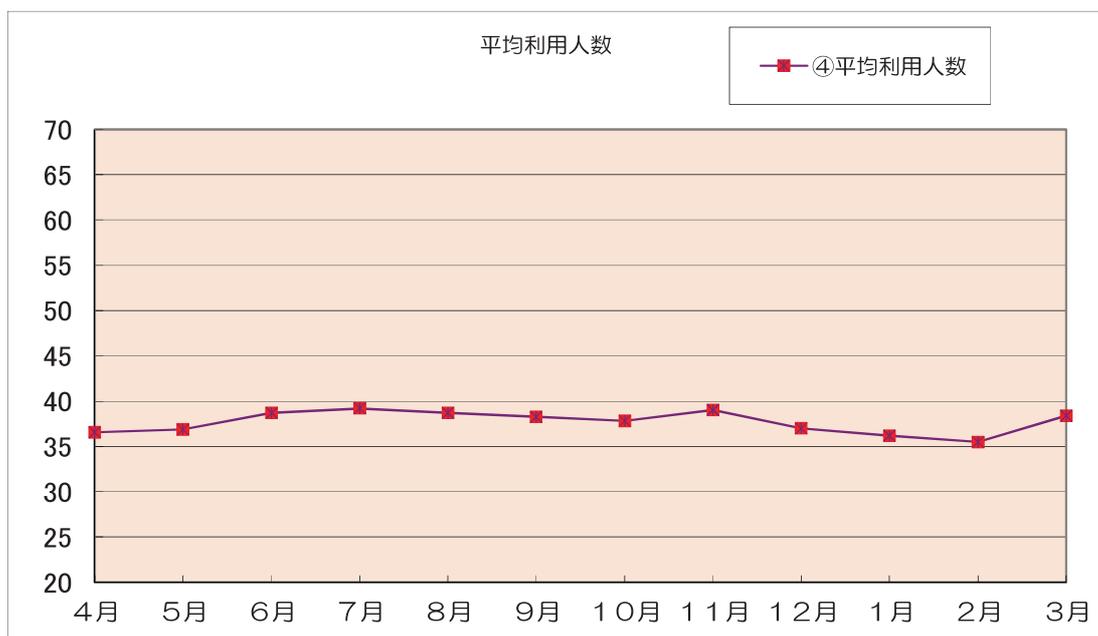
2. デイケアに於けるプログラムの充実と移行型デイケアの確立を図る。

- ① メンバーミーティングで挙げたプログラムをメンバー主体で実践出来るようサポートする。
- ② 就労セミナー終了者への就労に向けてのアプローチを関係機関と調整していく。
- ③ ピアサポーターとしての活動を充実させスキルアップを図る。
- ④ 家族教室を定期開催することで病気の理解と疾病教育を支援する。

文責 川島 浩也

平成30年度デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① 登録人数	104	104	105	108	108	103	103	107	109	111	110	112	107.0
②延べ利用人数	732	776	813	824	892	691	833	820	703	689	675	769	768.1
内ショートケア人数	98	108	117	128	111	109	130	96	98	78	77	85	102.9
③稼働日数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	20.3
④平均利用人数	36.6	36.9	38.7	39.2	38.7	38.3	37.8	39.0	37.0	36.2	35.5	38.4	37.7
⑤新規登録	1	0	2	3	0	0	0	5	2	2	0	2	1.4
⑥登録削除	1	0	1	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0.75



【部署名】

作業療法科

【職員数】

12名（作業療法士11名 作業療法補助員1名）

【業務内容】

精神障がい発病、または病状が悪化したことにより入院治療が必要となった際に薬物療法と併用して心理社会的治療法の一環として精神科作業療法（以下；OT）を行う。

薬物療法で急性期症状が軽減した時期に、集団での人間関係の中で手工芸やレクリエーションなどを媒介として持久力・体力・集中力・忍耐力を高め、自発性から協調性そして社会性を再び取り戻していくことで退院に向けたリハビリテーションプログラムを行う。また、通院者を対象にした外来OTでは外出の切っ掛けとしての居場所の提供や自己啓発の場としている。

南浜病院でのOTは21年目を迎えた。作業療法士の完全病棟担当制を実践したことで見えてきたメリットやデメリットを検証し、病棟単位で行っている心理社会療法との融合も両立できるプログラムの改編も行うことができた。また機能訓練の専門職としての側面でも寄与できるよう、身体障害に対する個人的なリハビリテーションの実施や行動制限時の深部静脈血栓予防対策プログラムの迅速な対応、転倒防止への提案などにも働き掛けていきたい。

【今後の展望】

作業療法科の基本方針として「安全で楽しく」を掲げている。常にリスクの可能性を考え予測義務・回避義務を果たしながらも自分自身が楽しく自主的に参加しつつ効果が実感できるようなプログラムを常に見直し実践していく。また、リハビリテーションの専門職としての自覚を持って、高齢化している患者の転倒・転落インシデントに対し、評価を行ったうえで適正なシューズ購入の提案や車椅子の整備の協力を果たしていく。

文責 細野 政昭

【実績】

◇OT参加者の経年推移



※平成11年5月開設以来、21年目を迎えOTの年間参加者が増加している

◇月単位の参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	3,317	3,424	3,460	3,527	3,718	3,043	3,657	3,176	3,093	2,946	1,896	3,394	38,651

※12月・1月の参加者数の減少はインフルエンザ流行拡大防止措置として集団OTを中止したため

◇病棟単位・外来OTでの参加者数

〈単位：人〉

病棟	精神科救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	外来OT	合計
実数	4,091	7,987	8,661	10,333	7,327	252	38,651

◇個人OT実数表

〈単位：人〉

	精神科救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟
対象人数	5	90	5	7	1
合計回数	30	1,146	33	183	4
平均回数	6.0	12.7	6.6	26.1	4.0

◇深部静脈血栓の評価と予防プログラムの立案件数

〈単位：人〉

	精神科救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟
対象人数	34	36	10	49	0